

# 救命の連鎖で切れ目ない対応を グループ職員が勉強会

救急災害医療委員会主催の「急変対応勉強会」が5月22日、城西病院で開かれました。この勉強会は、主に達生堂グループの新入職者を対象に、職場やふだんの生活の中で急変者に遭遇した時に適切な対応が取れるようにと開催。今年で4年目を迎え、城西病院、特別養護老人ホーム「ヒューマン・ハウス」、介護老人保健施設「すばる」、通所リハビリセンター「茶釜の湯」、ショートステイ「壬生の杜」の職員36人が出席しました。

結城消防署の救命救急士5人がアドバイザーとして駆け付け、城西病院の院内急変対応チーム（JRRT）のメンバーが講師となり、講義と実技が行われました。

最初に、病院や施設でCPA（心肺停止）の急変者を発見した時には、反応の確認、通報、心肺蘇生（胸骨圧迫やAEDによる処置）を医師やJRRTが到着するまで切れ目なく行う、「救命の連鎖」が必要と強調。1人でできることは限られ、まずは人を呼ぶこと。そして救急車や医師などが来るまで、決して救命措置を途切れさせないこと、と強調しました。

実技では、6人が1チームとなり、ダミーを使って胸骨圧迫やAEDを体験しました。胸骨圧迫では、1分間に100～120回を目安に胸部を約5cmの深さで圧迫、戻す作業を繰り返すことを、JRRTや救命救急士の指導で体験。AEDも基本的な使い方を体験しながら、体が水にぬれている場合、金属製のネックレスをつけている場合などの状況でどうすればいいかも学んでいました。

2019年5月24日



アドバイザーとして駆け付けた結城消防署の救命救急士の皆さん